

平成19年度 事務事業評価表						
(様式1)						
記入年月日	平成19年3月30日		記入者		連絡先	内線2627
平成18年度部名	保健福祉部		課名	高齢者福祉課	課長名	市川 正美
平成19年度部名	保険高齢部		課名	高齢者福祉課	課長名	市川 正美
事務事業名	若竹園施設維持管理事業					
予算上の事務事業名	若竹園					
1 総合計画における位置づけ			施策コード	11220		
基本目標	「学びあいあたたかさのある福祉文化都市」をめざして					
政策名	第1章 安心して生活できる福祉社会をつくります					
基本施策名	第2節 いきいきとした高齢社会の創造					
施策名	第2施策 高齢者の社会参加と生きがいづくり					
2 実施根拠及び関連法令・条例・規則・要綱等						
相模原市立老人福祉センター条例 相模原市立老人福祉センター条例施行規則						
3 個別計画の概要				概要		
計画名	第3期高齢者保健福祉計画			高齢化が進む中で、高齢者が住み慣れた地域で健康で安心して生活できるよう、施策等の展開を計画するもの。		
計画年次	18	年度～	20			
4 事業形態の区分			施設運営	5 事業開始年度		昭和63年以前
6 事業概要						
(1) 事業の目的(何のために行うのか、またはもたらしたい成果)					(2) 対象(誰、何)	
高齢者が教養の向上と健康の増進を図り、趣味やレクリエーション活動ができる施設で、その施設の運営管理を行う。					60歳以上の市民	
(3) 平成18年度事業の内容(活動)・・・いつ、どのような方法で実施した内容(活動)なのか。						
年間運営日数・・・347日 年間利用者数・・・57,143人 浴室・会議室・大広間・陶芸窯等があり、個人・団体が利用できる。 あじさい大学や教養講座・芸能大会も開催している。						
7 関連事業・類似事業又は他市の状況						
溪松園施設維持管理事業						
8 事業費の推移 [単位：千円]						
年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
事業費	23,021	25,143	26,732	27,144	27,144	
一般財源	23,001	25,122	26,712	27,074	27,074	
受益者負担金	0	0	0	0	0	
その他の特定財源	20	21	20	70	70	
人件費の合計	15,600	17,997	17,997	17,997	17,997	
事業コスト合計	38,621	43,140	44,729	45,141	45,141	
9 事業効率・・・活動単位当たりの事業効率						
事業名 (主たる事業名)	電気使用料(千円)			対象名称 と単位	利用者数(人)	
年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
事業コスト(主たる事業)	3,046	2,448	2,278	2,278	2,278	
対象数	53,873	58,596	57,143	59,000	59,500	
単位あたり経費(円)	57	42	40	39	38	
前年度比		0.74	0.95	0.97	0.99	

10 活動指標・・・実施した内容（活動）を数値化したもの					
指標名と単位	年間団体利用者数(人)	指標式と指標の説明	団体での施設利用者÷目標団体利用者数		
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
実績	9,967.0	10,618.0	10,706.0		
目標	9,950.0	10,000.0	10,700.0		
目標達成度(%)	100.2	106.2	100.1		
11 成果指標・・・もたらしたい成果の達成度を数値化したもの					
指標名と単位	団体の登録数(団体)	指標式と指標の説明	施設利用登録団体数の目標に対する達成率		
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
実績	38.0	38.0	40.0		
目標	40.0	40.0	40.0	41.0	42.0
目標達成度(%)	95.0	95.0	100.0		
12 個別評価					
(1) 妥当性の評価 [A:妥当である・B:妥当性に課題がある・C:妥当でない]					
A	<input type="checkbox"/>	・法令、条例により実施することが義務付けられている。			
	<input type="checkbox"/>	・法令、条例に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・公益性が高い、または必需性が高い事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。			
(2) 有効性の評価 [A:有効である・B:有効性を高める余地がある・C:有効でない]					
A	<input checked="" type="checkbox"/>	・上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・成果指標の実績値とその推移から見て、期待されるような成果をもたらしている。			
	<input type="checkbox"/>	・事業の対象範囲は適切であり、対象は事業を実施したことによる効果を楽しんでいる。			
(3) 効率性の評価 [A:効率が良い・B:効率性を高める余地がある・C:効率が悪い]					
B	<input type="checkbox"/>	・単位あたりの経費は適正である。			
	<input type="checkbox"/>	・再任用や非常勤職員などを活用しても、これ以上のコスト節減の余地がない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・受益者負担や補助等の割合に問題はない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	・事業の実施方法や実施体制は適正である。			
(4) 民間活力または市民協働の導入の可能性〔有・無〕					
有	<input checked="" type="checkbox"/>	・業務の一部または全部について、民間で実施する方が適している。			
	<input type="checkbox"/>	・業務の一部または全部について、市民協働により推進する方が適している。			
	<input type="checkbox"/>	・業務の一部に民間委託を導入しているが、さらに民間委託を導入しても効果が見込めない。			
	<input type="checkbox"/>	・市で実施する方が民間委託等をするより適している。			
13 総合評価（一次評価）					
(1) 自動判定結果					
	〔 〕：良好な状態を維持する事業				
	〔 〕：概ね良好な状況である事業				
	〔 〕：見直しを行う必要がある事業				
	〔 〕：抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業				
(2) 事業所管課長による評価（今後の方向性）			(3) 事業所管課長の評価に関する説明		
現状維持	<input type="checkbox"/>	・拡充・充実			平成16年度より、正規職員から嘱託職員に切り替え、人件費を削減し、効率的な運営を図っているが、今後指定管理者制度の導入やふれあいセンターへの移行などができるかどうかを検討したい。
	<input checked="" type="checkbox"/>	・現状維持			
	<input type="checkbox"/>	・見直し			
	<input type="checkbox"/>	・廃止			
14 成果向上及び効率性を高めるための方策			15 課題として認識されたこと		
平成16年度にエアコン取替修繕を行った結果、電気使用料が多く削減できた。委託している受付補助職員の人数を見直し、調整することで少人数で施設運営ができる体制に整えつつある。			高齢者が増える中で、老人福祉センターの施設・設備の見直しや、運営方法について、検討する必要がある。		
16 二次評価					
(1) 局内評価会議による評価（今後の方向性）			(2) 二次評価コメント		
現状維持	<input type="checkbox"/>	・拡充・充実			成果を検証し、効果的な事業実施の方法を検討する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	・現状維持			
	<input type="checkbox"/>	・見直し			
	<input type="checkbox"/>	・廃止			